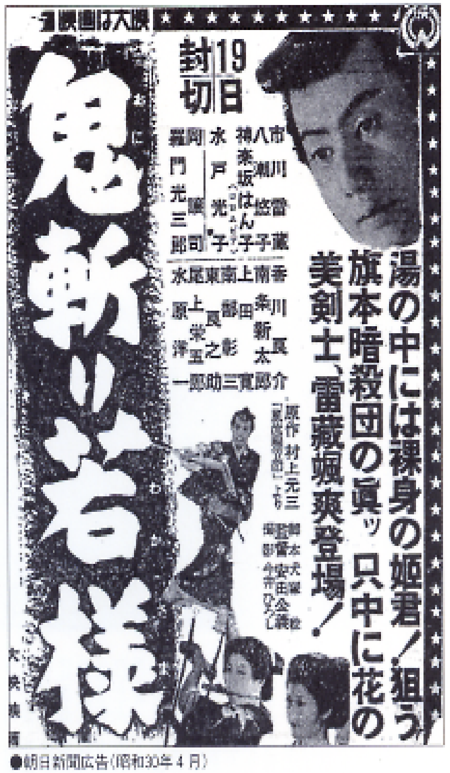
鬼斬り若様



■映画は大映

鬼斬り若様

19日封切

市川雷蔵
八潮悠子
神楽坂はん子
水戸光子
岡譲司
羅門光三郎

香川良介
南条新太郎
上田寛
南部彰三
東良之助
尾上栄五郎
水原洋一

湯の中には裸身の姫君！狙う旗本暗殺団の真ッ只中に花の美剣士、雷蔵颯爽登場！

原作 村上元三「風流編笠節」より
脚本 犬塚稔
監督 安田公義
撮影 今井ひろし

大映映画

●朝日新聞広告（昭和30年４月）

山根貞男のお楽しみゼミナール

「鬼斬り若様」は一九五五年の大映作品で、原作は村上元三の小説「風流編笠節」という。タイトルが一変しているところが興味深い。この映画は市川雷蔵が単独で主演する作品としては四本目で、当時、雷蔵は〝若様〟イメージで売り出しの真最中であった。題名変更はまちがいなくその線に沿っての作戦によるものであろう。

市川雷蔵扮する松平長七郎は時代劇の古典的ヒーローで、これまでにも多くのスターが演じてきた。たとえば林長二郎時代の長谷川一夫の主演作にズバリ「松平長七郎」（一九三〇）という作品がある。また、市川雷蔵のあとにも、東千代之介主演の「長七郎旅日記」二部作（一九五九）がある。

将軍家につながりのある貴公子が巷をさすらい悪と闘う。このパターンはいわゆる〝貴種流離譚〟と呼ばれる物語の型で、昔から講談や舞台で庶民に親しまれてきた。大衆時代小説にこのパターンを踏まえたものは、無数にある。雷蔵は前作「次男坊判官」で〝遠山の金さん〟に扮したが、やはり同型のドラマだといえよう。松平長七郎という題材は「次男坊判官」からの連続で採用されたと思われる。

……剣と恋の雷蔵が、浴槽の姫君を抱いて、暗殺団の真ッ只中へ！

この映画の惹句である。なんともエロチックで、色っぽい場面を想像させるが、そんなシーンは出てこない。美しい姫君が湯舟のなかで身をすくめている姿だけでも、けっこう色っぽいのだが。いまから考えると、このエロチシズムはのちの雷蔵の〝眠狂四郎〟シリーズを先取りしているようにも見える。雷蔵時代劇にはエロチシズムが似合うということか。

姫君役の八潮悠子は、宝塚歌劇出身で、一九五四年に退団して、大映東京撮影所から現代劇で映画にデビューした。これが初の時代劇である。

ところで市川雷蔵はこのとき、東京撮影所での「薔薇いくたびか」撮影と掛け持ちで、東京から京都へ戻るのに初めて飛行機に乗ったという。

■キャスト

松平長七郎	市川雷蔵
百合の局	八潮悠子
花井左近	神楽坂はん子
おれん	水戸光子
酒井雅楽頭	岡譲司
磯貝八郎太	羅門光三郎
三宅宅兵衛	香川良介
田村右平次	南条新太郎
栗田源	上田寛
猿若源三郎	南部彰三
松屋三十郎	東良之助
遠野左兵衛	尾上栄五郎
赤鞘五左	水原洋一
将軍家光	原聖四郎
嶺大六之助	伊達三郎
澤田治太夫	玉置一恵
最清楽市	堀北幸夫
團三五郎	清水明
細原竹宗吉	三浦志郎
賭場の三下	小林勝
宮田の梅次	大国八郎

■スタッフ

製作●酒井箴
企画●浅井昭三郎
原作●村上元三
脚本●犬塚稔
監督●安田公義
撮影●今井ひろし
録音●奥村雅弘
照明●中岡源権
音楽●上原げんと
美術●西岡善信
編集●西田重雄
装置●後藤幸一
装飾●中島小三郎
背景●小倉清三郎
美粧●福山善也
記録●中井妙子
製作主任●竹内次郎

TNO9746
昭和30年度作品
83分・モノクロ

○本商品は保存原版から最良の状態で製作しておりますが、映画公開時より長い年月を経ておりますので、一部作品にはお見苦しい場面もございます。あしからずご了承ください。